



エコアクション21

環境経営レポート

活動期間：2018年4月～2019年3月

2018年度



千葉スバル株式会社

発行日：2019年07月30日

目次

1. 会社概要	3
2. 環境方針	6
3. 環境目標及びその実績	7
4. 環境活動の成果	8
5. 環境活動計画の内容と取組結果及び今後の取組	9
6. 環境改善活動・社会貢献活動	10
7. 環境関連法規制の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無	12
8. 代表者による評価と見直し	12

【1】会社概要

(1) 事業所名

千葉スバル株式会社

(2) 所在地

千葉県千葉市美浜区新港176-2



(3) 代表者氏名

代表取締役社長 中村 亜人

(4) 環境管理責任者及びE A 2 1 事務局連絡先

環境管理責任者	取締役 管理本部 本部長	間野 英雄
推進事務局	C S R 推進部 副部長	小川 登
	お客様相談室 室長	椎名 功
	内部統制監査室	高橋 伸一
	内部統制監査室	山根 俊介

連絡先 電話 043-243-2292
FAX 043-203-0120
URL <http://www.chibasubaru.com/>



(5) 事業の内容

新車・中古車の販売
部品・用品の販売
点検・整備

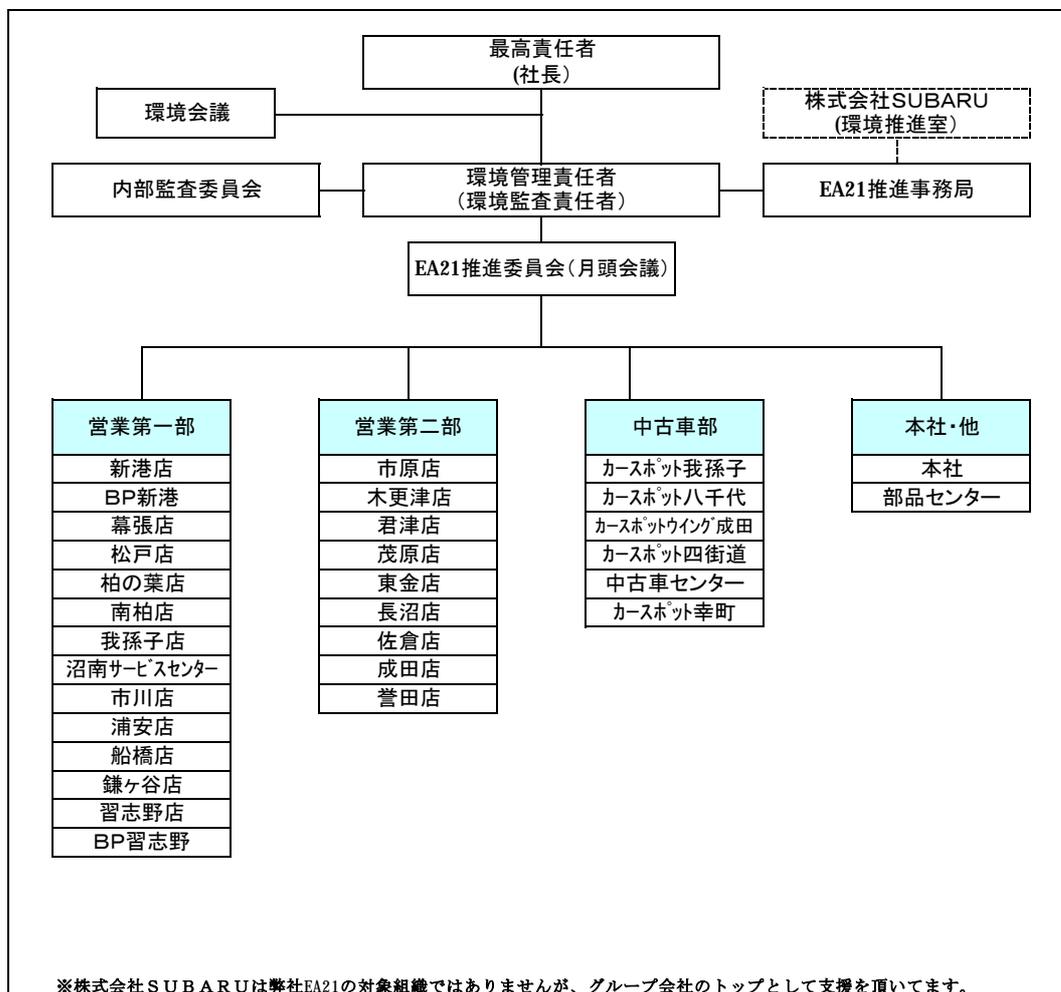
钣金塗装
自動車リース
損害保険代理店業務

(6) 事業の規模

・売上高	275億円 (2018年度)
・新車販売台数	7032台 (2018年度)
・中古車販売台数	5404台 (2018年度)
・従業員数 (派遣・パート等含む)	517名 (2019年3月末現在)
・店舗数	本社 1
	新車販売 20
	中古車販: 7
	その他 6

(7) EA21 推進組織図

※ 千葉スバル自動車株式会社は全事業所・全部門にて
エコアクション21に取り組んでいます。



(8) EA21対象拠点一覧

千葉スバル自動車は全組織・全活動を対象としてエコアクション21に取り組んでいます。

事業所名	郵便番号	住所	責任者	電話番号	FAX番号	面積(坪)		工場 資格	正社員				非正規	総合計	組織区分
						土地	建物		セールス	メカニック	その他	総数			
1 本社	261-0002	千葉市美浜区新港176-2	中嶋 弘幸	043-243-2292	043-203-0120	2503.4	1014.9	—			88	88	4	92	A
2 新港店			小林 健策	043-242-5111	043-238-1350			指定	10	7	8	25	1	26	C
3 BIP新港			佐藤 剛	043-238-1351						5	1	6	1	7	E
4 幕張店	262-0032	千葉市花見川区幕張町5-417-35	神谷 剛	043-213-3800	043-213-3805	1000.1	458.5	指定	6	5	6	17		17	C
5 松戸店	271-0053	松戸市中根156-1	渡邊 正洋	047-363-6111	047-330-1187	1022.3	490.2	指定	7	5	6	18	1	19	C
6 柏の葉店	277-0814	柏市正連寺406-3中央134街区4	木下 真哉	04-7133-7231	04-7140-8054	825.2	193.7	指定	10	6	6	22	1	23	C
7 南柏店	277-0856	柏市新富町1-1-11	岡本 武司	04-7147-5900	04-7147-5905	930.2	333.7	指定	5	4	5	14	3	17	C
8 我孫子店	270-1152	我孫子市寿2-25-47	谷 勇輝	04-7185-5050	04-7181-1137	316.7	121.2	—	4	1	4	9	1	10	C
9 沼南サービス	277-0922	柏市大島田127	佐藤 金治	04-7193-3700	04-7193-3710	222.6	109.8	指定		5	1	6	1	7	D
10 市川店	272-0015	市川市鬼高4-7-5	伊沢 太郎	047-378-1261	047-320-3241	700.0	332.3	指定	8	5	6	19	4	23	C
11 浦安店	279-0002	浦安市北栄4-20-8	小俣 啓一	047-353-2111	047-390-6450	435.3	260.9	指定	5	5	7	17	1	18	C
12 船橋店	273-0001	船橋市市場2-9-19	松崎 陽祐	047-423-6631	047-426-8320	656.7	196.9	指定	7	6	6	19	2	21	C
13 鎌ヶ谷店	273-0115	鎌ヶ谷市東道野辺5-9-19	小野寺 猛	047-442-1211	047-498-5055	1068.0	524.0	指定	5	4	5	14	2	16	C
14 習志野店	275-0001	習志野市東習志野6-16-43	菊地 猛	047-473-2171	047-470-1455	999.2	481.3	指定	7	5	6	18	1	19	C
15 BIP習志野			三橋 伸夫							5	3	8		8	E
16 市原店	290-0050	市原市更級2-3-1	下川 久幸	0436-37-1221	0436-20-1121	1324.0	595.0	指定	7	5	7	19	2	21	C
17 木更津店	292-0014	木更津市高柳952	酒川 良教	0438-23-0321	0438-20-1039	986.0	193.6	指定	6	5	5	16	1	17	C
18 君津店	299-1163	君津市笠師4-2-7	眞坂 貴吉	0439-55-7200	0439-50-1288	485.4	137.0	指定	3	4	4	11	1	12	C
19 茂原店	297-0074	茂原市小林1732	長野 正幸	0475-22-5271	0475-20-1090	632.2	209.4	指定	3	5	5	13	1	14	C
20 東金店	289-1327	山武市穂島141-1	下林 穂高	0475-82-7221	0475-80-1005	591.4	167.1	指定	3	4	5	12	1	13	C
21 長沼店	263-0001	千葉市稲毛区長沼原町725	光山 太郎	043-250-3791	043-298-9045	966.4	342.7	指定	5	5	6	16	2	18	C
22 佐倉店	285-0837	佐倉市王子台5-4-1	玉垣 貴宏	043-462-5500	043-460-1575	384.5	202.6	指定	6	6	4	16	3	19	C
23 成田店	286-0046	成田市飯仲11-31	名塚 勝芳	0476-22-6811	0476-20-1043	1032.3	210.5	指定	9	6	9	24	1	25	C
24 誉田店	266-0005	千葉市緑区誉田町1-392-3	荒川 幸一	043-292-6601	043-226-9032	429.1	178.0	指定	5	5	5	15	1	16	C
25 カースポット我	270-1177	我孫子市柴崎34-2	押切 裕之	04-7183-0611	04-7183-7282	1004.3	60.5	認証	4	2	1	7	1	8	C
26 カースポット八	276-0036	八千代市高津東4-7-11	小林 満	047-487-0486	047-487-0520	608.0	67.6	認証	3	1	1	5		5	C
27 カースポットウ	286-0021	成田市ウイング土屋113	廣田 芳和	0476-22-8810	0476-22-8911	461.9	69.3	認証	3	1	1	5	1	6	C
28 カースポット四	284-0041	四街道市市上野346-14	山野辺 大志	043-433-8500	043-309-5080	2330.8	23.5	—	3			3		3	B
29 中古車センター			福土 雅聡	043-433-8505	043-433-8501		17.2	—	2		6	8		8	A
30 カースポット幸	261-0001	千葉市美浜区幸町2-20-31	大関 貴弘	043-243-1321	043-243-2625	752.9	176.3	—	4			4		4	B
総合計									140	117	217	474	38	512	

※社員数は2018年3月末現在

組織区分の意 A=オフィス業務(事務所業務)

B=オフィス業務+自動車販売(新車、中古車)

C=オフィス業務+自動車販売(新車、中古車)+整備業務

D=オフィス業務+整備業務

E=オフィス業務+钣金塗装

(9)「認証登録の範囲(組織・活動)」

認証・登録番号:0006212

認証・登録年月日:2010年11月18日

認証・登録事業者名:千葉スバル自動車株式会社

対象事業所名:(8)「EA21対象拠点一覧」を参照

所在地:千葉県千葉市美浜区新港176-2

事業活動内容:新車・中古車の販売、部品・用品の販売、点検・整備、

钣金塗装、自動車リース、損害保険代理店業務

【2】環境経営方針

環境経営方針

《基本理念》

当社はスバル車の販売やサービス活動の環境影響を常に考え、車が人や社会や自然とよく調和するよう、環境保全活動を進めます。

《基本方針》

この理念のもと、当社が行う自動車及び部品の販売、整備、修理、保険業務に関する事業活動が環境に与える影響を考慮し、以下の環境保全活動を推進します。

1. 事業活動の全領域で、省資源、省エネルギー（CO2削減を含む）、リサイクル、公害防止に配慮した活動を行います。
2. 環境汚染を未然に防止すると共に、環境マネジメントシステムと環境パフォーマンスが継続的に改善できるように推進します。
3. 適用する環境関連の法規制、条例、及び当社が同意するその他の要求事項を遵守します。
4. 特に次の環境保全の重要項目に対して、環境目標を設定し取組み、必要があれば見直しを行いません。
 - ①省エネルギーの推進（電力使用量、燃料使用量）
 - ②省資源（水使用量、紙使用量）
 - ③廃棄物の排出抑制と適正処理（一般廃棄物及び産業廃棄物排出量削減）
 - ④化学物質管理の強化（PRTR法関連、VOC対策）
 - ⑤グリーン購入の推進
 - ⑥環境に配慮した車の販売、サービスの提供
 - ⑦拠点周辺の清掃を積極的に行ない、地域の環境改善に貢献する
5. この環境方針を全従業員に周知し、教育活動を推進します。

2014年4月1日 制定

(2018年6月30日 改訂)

千葉スバル自動車株式会社
代表取締役社長 中村 亜人

【3】環境目標及びその実績

当社は地球環境に配慮し、CO2排出量の少ない
自然エネルギー発電の電力会社より電力を購入しています。

【評価】 ◎110%以上達成、○100%以上達成、△95%以上で少々未達、×94%以下で未達

年度		単位	2016年度実績 (基準年度)	2017年度目標 (前年度)	2018年度目標	2018年度実績	評価 [目標達成率]	2019年度目標 (次年度)
① 二酸化炭素 排出量の 削減	電気使用量 (CO2排出量)	kWh (kg-CO2)	2,736,126 (71,139)	2,736,126 (71,139)	2,736,126 (71,139)	2,623,063 (68,199)	○ 104.3%	2,736,126 (71,139)
	ガソリン (CO2排出量)	L (kg-CO2)	187,090 (434,359)	185,219 (430,016)	183,348 (425,672)	184,080 (427,067)	△ 99.6%	181,477 (421,328)
	灯油 (CO2排出量)	L (kg-CO2)	1,838 (4,580)	1,819 (4,534)	1,819 (4,534)	1,289 (3,209)	◎ 141.1%	1,783 (4,443)
	軽油 (CO2排出量)	L (kg-CO2)	31,345 (82,260)	31,031 (81,437)	30,718 (80,614)	26,814 (70,361)	◎ 114.6%	30,404 (79,790)
	LPG (CO2排出量)	kg (kg-CO2)	21,591 (64,815)	21,375 (64,166)	21,159 (63,518)	42,967 (128,901)	× 49.2%	20,943 (62,870)
	都市ガス (CO2排出量)	m ³ (kg-CO2)	190,933 (402,569)	190,933 (402,569)	190,933 (402,569)	223,478 (471,188)	× 85.4%	190,933 (402,569)
	【二酸化炭素(CO2)排出量合計】	kg-CO2	1,059,721	1,053,861	1,048,047	1,168,925	× 89.7%	1,042,140
②水使用量の削減		m ³	20,648	20,442	20,235	18,880	○ 109.4%	20,029
③産業廃棄物排出量の削減		t	658.00	658.00	658	629.21	○ 104.6%	658
④化学物質管理の推進 (PRTR法、VOC規制対応)			使用量管理	使用量管理	使用量管理	使用量管理	○	使用量管理
⑤グリーン購入の推進 (事務用品、コピー用紙)		%	100	100	100	100	100	100
⑥ 環境業 配に お 推 進 す	エコカー販売比率向上(*)	%	97.8	98	98	97	△ 99.0%	98
	エコタイヤ販売促進 ※新車装着含まず	本数	12,005	17,000	17,000	14,041	× 82.6%	17,000
	運転支援システムEyeSight 搭載車の販売促進	台数	5,835	6,359	6,359	5,617	× 88.3%	6,359
	エンジンオイルライン洗浄システム スラッジナイザーの販売促進	台数	5718	—	—	7,468	-	5,718
⑦紙(コピー用紙)使用量削減		枚	4,829,000	4,829,000	4,829,000	4,950,000	△ 97.6%	4,829,000

※2017年度以降の環境目標(中期3カ年)は、2016年度の実績値を基準年度とし、2017年度1%減、2018年度2%減、2019年度3%減と定める。
但し、店舗建替えや業務拡大により削減が見込めない電気・都市ガス・紙使用量は、前年を超えないよう目標を設定。

【CO2排出係数】

【電気】000.026kg-CO2/kWh・※(電気事業者:プレミアムグリーンパワー株式会社<平成27年度排出係数>)・【ガソリン】2.32166kg-CO2/L・【灯油】2.49193kg-CO2/L・【軽油】2.62434kg-CO2/L・【LPG】3.00196kg-CO2/kg【都市ガス】2.10843kg-CO2/m³

○ グリーン購入の推進

・環境大臣認定のエコ・ファースト企業、アスクルより購入(事務用品、コピー用紙)



○ 2014年10月より、エンジンオイルライン洗浄システム『スラッジナイザー』を導入。

・エンジンオイルの性能を最大限に引き出す事で燃費の向上(ガソリン使用の削減)に繋がります。

2016年度実績:5,718台、2017年度実績:6,123台(2016年度比率7%UP)、2018年度実績:7,468台(2016年度比率30%UP)

○ 運転支援システム『EyeSight』装着車の販売を促進し交通事故削減に取り組みました。

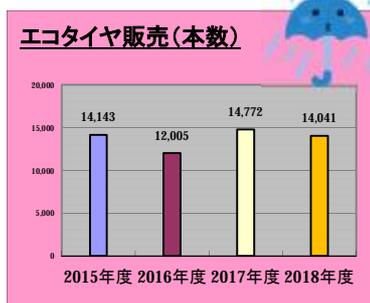
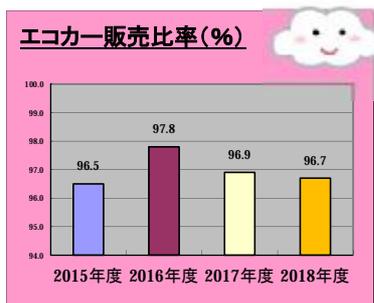
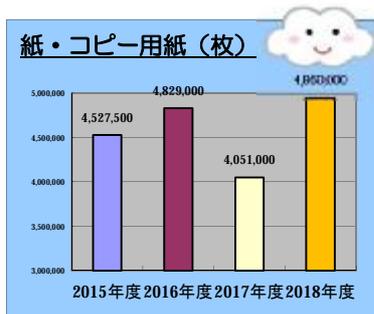
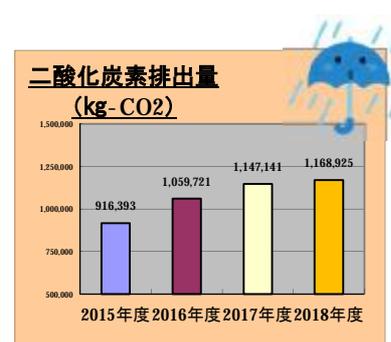
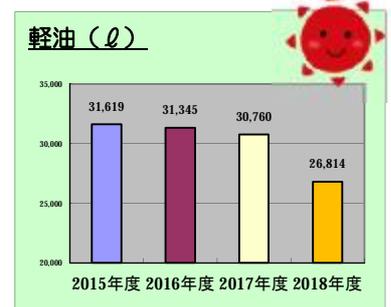
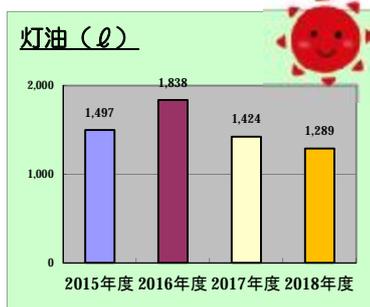
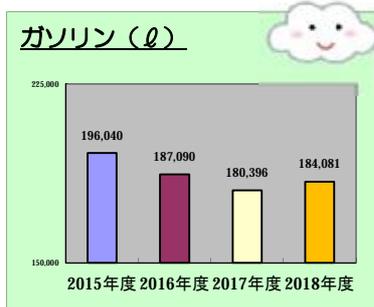
・交通事故を減らす事で産業廃棄物の削減及び钣金修理に関わるCO2排出の削減に繋がります。

2016年度実績5,835台、2017年度実績6,836台(2016年度比較17%増)、2018年度実績5,617台(2016年度比較4%減)

・3年間販売台数18,288台、1万台当たりの事故率は約1%、アイサイト搭載車事故率は非搭載車の60%減(ITARDA調べ)、
よって、アイサイトなし車の事故は183台、アイサイト搭載車の場合73台 アイサイト搭載車販売により3年間で約110件の事故防止になり
110件分の産業廃棄物、钣金修理に関わるCO2削減が行われた



【4】環境活動の成果



【5】環境活動計画の内容と取組結果の評価 及び 今後の取組

評価:◎目標達成・活動実施 ○目標未達成・活動実施 ×目標未達成・活動予定以下

項目	活動内容	評価	評価及び今後の取組
①二酸化炭素排出量の削減	1) CO2排出量の少ない自然エネルギー発電会社から購入	○	・引き続き、排出係数の少ない電気事業者からの購入を継続しCO2削減に努める
電気使用量の削減	・節電への取組強化(意識向上)の継続 ・冷暖房の室温管理 ・クールビズ期間の拡大(6月～9月⇒5月～10月)	◎	・節電への意識向上、各種省エネ対応機器による削減が目標達成に繋がる。今後もクールビズ期間の拡大及び新規店の積極的省エネ設備の設置により更なる電気使用量の削減に取組む
燃料使用量の削減	1) 効率的な燃料の使用 2) エコ運転の推進(安全運転取組み啓蒙活動) 3) 冷暖房の室温管理(ガスエアコン対策) 4) クールビズ期間の拡大(ガスエアコン対策)	○	・ガソリンは(1%未達)で目標値には届かなかったが基準年である2016年より2%の削減が行われた。反面、LPG・都市ガスが悪化した。原因は現場の労働環境改善を目的としたガス遠赤ヒーターの導入が大きな要因であったが、ほぼ導入は完了したので次年度は急激な悪化は無いと思われる。又、軽油が大きく改善された。理由は市場措置が一段落しキャリアカーの使用が減った為と考えられる。今後はガスを中心に更なる削減に取組む
②水使用量の削減	1) オフィスでの節水活動の推進 2) 車両洗車時の節水	◎	・整備入庫車両の洗車基準を見直した為大幅な水削減に繋がった。今後も水使用量削減に取組む
③産業廃棄物の削減	1) 廃棄物の分別再資源化の強化 2) 自動車廃棄部品のリサイクル化、有価化の促進(バンパー、バッテリー、他) 3) 排出量削減の取組	◎	2016年度に比べ、項目で極端な削減は確認できないが、平均的に全項目が削減された。日頃の削減意識が数字にあらわれたと思うが、引き続き啓蒙活動を行い更なる削減に取組む
④化学物質の管理推進	1) PRTR対象化学物質の使用量管理	○	PRTR制度対象事業者ではないが、一覧表にて使用量の管理を行って行く。
⑤グリーン購入の推進	1) 事務用品(コピー用紙、ボールペン等)のグリーン対象の優先的購入	◎	・コピー用紙は100%実施継続で管理。又、その他事務用品もグリーン用品購入を優先。今後も事務局にてグリーン用品購入の啓蒙活動を継続
⑥事業における環境配慮	エコー販売比率向上	○	・2016年度に比べ全体の販売台数が減少し、反面スポーツタイプ車の販売台数が維持されたのが、比率悪化の要因である。引き続きエコー販売に注力し拡販に取組む
	エコタイヤ販売促進	○	目標には届かなかったが、2016年度比で117%増の拡販になった。今後もエコタイヤ提案を続ける。
	運転支援システムEyeSight搭載車の販売促進 エンジンオイルライン洗浄システムスラッシュナイザーの販売促進	◎	・搭載車両の販売促進は進んだが目標値に届かなかった。今後もお客様への代替を提案していく。 ・数値目標の設定は無いが、基準年を大幅に超える実績となった。引き続き提案活動を進める。
⑦紙(コピー用紙)使用量削減	1) 電子文書会議(iPad導入) 2) ITやデータによる管理推進 3) コピー用紙の裏紙使用推進	○	・使用量は2016年基準年度に比べ増加してしまった。今後もファイルサーバ等の活用と共に複合機のスキャン機能を活用し削減に努める。

【次年度の取組予定】

- 次年度(2019年)環境目標は、2016年度に作成した中期計画に基づき設定する。
- 新規移転オープンや拠点リニューアルの際、積極的に省エネ設備を導入する。
 - ・オープン店:市川店、ユウカリが丘店、(LED電球化、節水型トイレ、省エネ対応エアコン)
 - ・修繕予定:【省エネ対応エアコン設備入替】成田店、我孫子店
 - ・修繕予定:【省エネ対応 冷えルーフ設置】CS八千代、茂原店、木更津店、君津店、東金店、成田店、CSW成田、幕張店、沼南SC
 - ・修繕予定:【省エネ対応 LED電球入替】新港店



【6】-1環境改善活動



習志野店、南柏店、長沼店の屋根の表面に「冷えルーフ」を採用し、日射による温度上昇の抑制を行った。
屋根裏温度で5～10℃、室内温度で2～3℃



我孫子店ショールームの照明をLEDに変更し、通常の蛍光灯と比べ40%～50%の消費電力削減を行った。



三菱電機 PKZ-ERMP80KR
(省エネセレクトモード、CO2排出量など省エネ管理)



CS八千代の事務所エアコンを省エネ対応機種に入替を行い、節電に努めた。

地球温暖化防止の一環として、環境省のクールビズ期間(5月～9月末)を10月末まで延長し、地球温暖化防止に努めた。

点検・整備 損害保険代理店業務



BP新港、BP習志野、ルート販売千葉の3台のキャリアカー(ディーゼル車)を最新モデル(「ポスト新長期規制」対応)へ代替を

【6】-2社会貢献活動



従業員より募金を集め、「あしなが育英会」(交通遺児)へ137,044円の寄付を行



社会福祉施設へ福祉車両寄贈を目的とした募金活動



地元、高等技術専門学校にて地域の小中学生対象イベントに参加



地元自動車大学校にて地域の小中高生対象イベントに参加



新港店周辺の清掃活動実施



市原店にて地元高等技術専門学校25名の会社見学を受入

【7】環境関連法規等の遵守状況の確認、及び評価の結果、並びに違反、訴訟等の有無

(1) 適用となる主な環境関連法規(遵守評価 2019.6.30)

主な適用法規	要求事項	遵守状況
水質汚濁防止法	特定施設の届出(自動車自動洗浄装置等)	○
浄化槽法	浄化槽設置の届出、年1回の定期検査の実施	○
下水道法	排水施設の設置義務、特定施設の届出	○
消防法	少量危険物貯蔵所の届出	○
フロン排出抑制法	フロン使用機器の適正管理	○
廃棄物処理法	廃棄物の適正処理、廃棄物処理業者との委託契約、廃棄物の表示・保管管理、マニフェストの集計・報告	○
騒音規制法	特定施設の届出(自動車自動洗浄装置、コンプレッサー等)	○
振動規制法	特定施設の届出(自動車自動洗浄装置、コンプレッサー等)	○
化管法(PRTR法)	特定化学物質の排出量・移動量の把握と記録、基準値以上の取扱量の場合に行政に報告	○
自動車リサイクル法	使用済自動車の適正処理	○
自動車NOx、PM法	自動車排出NOx及びPM排出抑制に必要な措置、届出	○
以下は千葉県、各自治体の条例		
各市環境保全条例施行規則	特定施設「圧縮機」の規制対象出力(上乗せ条例)	○
千葉県ディーゼル条例	特定自動車の粒子状物質減少装置の装着	○

(2) 違反、訴訟等

当社における環境関連法規への違反はありません。なお、関係当局より違反等の指摘及び訴訟は過去3年間ありません。

【8】代表者による評価と見直し

5年前と比較し、お客様数が15%増の61,304台(+8,188台)と増大したことで、お客様の各種整備(特に定期点検)の依頼も増加傾向にある。それに伴い受入態勢の強化が必要となり、職場環境の改善、拠点の拡大が今後も必要とされることから、昨年度同様に環境に配慮した設備設定と適切な使用に取り組むこと。また、増加したお客様が定期点検に入庫していただくことでお車のコンディションをベストな状態にすることでCO2削減に繋げること。